

令和6年度 第1回教育課程編成委員会 要旨

日時：令和6年7月18日（木）10:00～12:00
場所：国際園芸アカデミー 研修室A（オンライン）

【あいさつ（今西学長）】

今年度本校は20周年を迎える。4月に新入生21名が入学し、新型コロナも5類に移行し平常に戻っており、海外視察研修もシンガポールに行くことが出来た。今後も学習の機会を的確に捉えながら質の向上を図ってまいりたい。本校は平成30年に、文部科学省より職業実践専門課程の認定を受けており、教育課程編成委員会もその認定を受けたときの条件の一つになっている。本委員会は、企業や業界団体との連携を図りながら、実践的な教育の保証や向上を目指すために設置されている。委員の皆様から業界における人材の専門性やその動向、地域の産業振興に関わるようなご意見を頂き、それを反映しながら今後に繋げていきたい。

【委員会の成立について（井戸副学長）】

委員9名中8名の出席をいただき、過半数の出席であるため、教育課程編成委員会規程第8条第1項の規定により、本日の教育課程編成委員会が成立。

【検討事項1：令和5年度カリキュラムの実施状況について】

（資料1～3により説明）

山田委員

●授業評価アンケート結果について（R5年度後期授業評価アンケート結果M1）

- ・17園芸福祉論・実習の到達目標①、②について、そもそも違いはあるか。

相田委員

- ・17園芸福祉論・実習の到達目標①、②が同一の文言になっているのは、資料を作る際のミスであり、到達目標②は「ハープを取り入れた園芸福祉プログラムを立案することができる」に修正をお願いしたい。

山田委員

- ・到達目標の文言について、授業実施側の細かい意図が学生に伝わっていれば、きちんと回答してもらえと思う。

日比委員

●造園積算・施工管理実習について

- ・積算は難しいということだが、どんなものを課題として使っているか。どのように授業をされているのか気になった。

相田委員

- ・授業の内容は、造園工事、設計図面・仕様書、工事費の構成と数量計算、工事費の積算、施工計画、施工管理という流れで、造園の積算について全般的に学んでいく授業である。授業内容について、アドバイスいただけるとありがたい。

日比委員

●M1 授業 8 測量実習の授業について

- ・平板測量は、実際の現場で現在使わない。平板測量を授業で行っているのか。

相田教授

- ・授業では、測量を学ぶ上で最も基本的な測量方法である平板測量の理論と実際について、実習で学ばせている。
会社によっては、現場で平板測量を使っていると言われたところもあった。
また、測量実習の授業は、平板測量、水準測量、地形測量、トータルステーション操作など、測量全般を学ぶ授業内容となっている。

日比委員

- ・必要性があるのであれば、必要なことかもしれない。ただ、できるのであれば、実際の現場で導入が進んでいる新たな測量技術について、全く知らないで社会に出るのではなく、授業で学生に紹介しておくといよい。

宮田委員

●授業評価アンケートについて

- ・アンケートを踏まえてカリキュラム内容を見直していく取り組みは非常によいことだと思う。
- ・アンケートの中で、すべての科目について、きっとネガティブな意見もあると思われるが、見直しは教員が検討するのか、別の検討の場があるのか。

臼田委員

- ・アンケートでは、全科目、学生からいただいた意見を一覧にまとめ、どのように改善していくか、コメントを書いて学内に掲示している。
- ・授業の改善については、まず各コースで検討を行い、次年度のシラバス作成時に反映する。その後、教務委員会で必要に応じて修正を行う。

(資料4-①～4-④により説明)

山田委員

●卒業研究・卒業制作について

- ・授業時間数が270時間から240時間へ、30時間少なくなったとのこと。大学では単位制をとっているが、アカデミーでは卒業の要件として、総時間数でみればよいか。

臼田委員

- ・本校の卒業の要件は、総時間数で1800時間。現状単位制ではない。30時間減ったことによる影響はなかった。

今西学長

- ・私どもも、単位制への移行について検討していこうと思っている。
- ・文部科学省が定める専修学校の修了の基準は、総授業時数1700時間以上となっているが、本校ではそれを上回る1800時間を卒業の要件としている。かつては2100時間であったが、学生に負担が大きく、選択授業も少なかったため、調整しながら現在に至っている。

日比委員

●授業の外部からの評価について

- ・いろいろな取り組みを行っている。装飾コースや造園コースでは、アクティブGやぎふワールド・ローズガーデンで展示するというをやっている。外部の方々の目に触れることが多いと思うが、アンケートのような形で評価をもらうことを行っているのか。

林准教授

- ・装飾コースでは、個人でテーマを持って作成しているが、アンケート等評価をいただくことは今のところしていない。

相田委員

- ・造園コースもぎふワールド・ローズガーデンの担当者・職員から来園者の意見を聞いたりするが、アンケート等は実施していない。

日比委員

- ・学生の励みとなり、形に残る資料として外部の方の評価を渡せるとよいと考える。
- ・指定管理として入っている百年公園でも、アカデミー学生の作品展示をしていただいております、お客様の意見をまとめて提供することも重要と考える。協力をさせていただく。

【検討事項2：国際園芸アカデミー実践教育フィールドの開設及び令和6年度ぎふワールド・ローズガーデンを活用した授業について】

(資料5-① 宮田委員より説明)

今西学長

●ぎふワールド・ローズガーデン実践教育フィールドについて

- ・資料中の R3 基本構想の策定、R4 施設基本設計・実施設計にはどれくらいの費用がかけられたのか。

宮田委員

- ・R3 基本構想の策定：1,639千円、R4 施設基本設計・実施設計：3,270千円

今西学長

- ・これだけの予算をかけている施設である。事業効果を上げていかなければならない。
- ・この施設はアカデミーの専用施設ではなく、公園施設である。一般の公園利用者にも使っていたらいい施設であるので、公園指定管理者においては、この施設を活用していただきたい。

(資料5-② 臼田委員より説明)

今西学長

●ぎふワールド・ローズガーデンを活用した授業について

- ・学生はバスに乗ってぎふワールド・ローズガーデンへ移動する時間のロスがある。授業を半日単位もしくは1日単位で計画するなど工夫をしているが、移動時間がかかるデメリットの解決は難しい。
- ・ぎふワールド・ローズガーデン活用については、本年度2回目の委員会でメリット・デメリットの検証を行っていきたい。

【意見交換：業界の動向、求める人材について】

(資料6により説明)

大西委員

- ・鉢花、ミニバラを生産している。業界はずっと右肩下がり、その中でどうしていくか。
- ・学生さんは花に興味があり、学ぶことでより花が好きになって、一生の生業にしていくといった教育をしていただいているのはありがたいこと。
- ・農業は科学だと思っている。植物、花に限らず、すべてのことは数字で表せるはず。先輩生産者の経験や勘もすべて数字で表せる。理論的に科学的に物事を判断し、根拠を持って生産に取り組める人材を求めている。
- ・いずれ生産をしたいという学生も、まずは装飾を勉強しようということもよい。育てた花の魅力を加工して販売する、そういうセンスを磨くことに興味があることも大切。
- ・コミュニケーション力も大切。植物を作るだけでなく、お客様、販売店、バイヤーいろいろな方と一緒に商品を作り、どうやって売っていくか等コミュニケーションをとることも学んでもらいたい。

國井委員

- ・コミュニケーション力は一番大切だと思う。
- ・ただ販売するだけでなく、植物のこと、病気や害虫のことを知っていたほうが、お客様に買ってもらえる。
- ・元気がない植物をいつまでも展示していても売れない。お客様が購入したあと、どんな方でも長く育てられるように、病虫害のない、健全な商品を販売するなど、気づきがあることは大切。
- ・あれもこれもは難しいが、様々な事柄を少しずつ勉強することが大切。

日比委員

- ・資格を持って就職してくれたら、すぐ即戦力となり良い。
- ・カリキュラムについて、樹木の生態等学ぶ時間が、もう少しあると良いのではないか。
- ・樹を扱う業界では、土壌についての知識も必要。
- ・グリーンインフラ、地球温暖化防止の面で活躍できる業種である。
- ・学生個人の特筆できる能力、長けている所を伸ばすと活躍の場がある
- ・コミュニケーション力、企画力、課題解決能力等があれば、非常に良い。
- ・卒業生で活躍している人がいる。基礎的な緑化、施工管理、樹木の生態、土壌など知識があれば早くから社会で活躍できる。

小笠原委員

- ・アカデミーは、1990年代花業界が上り調子の時代に企画された。今年20周年だが、2004年開学の頃は、すでに切り花鉢花の生産ピークから下がってきた頃である。
- ・現在は少子高齢化社会で、生産者も辞める方が増加し後継者がいない。加えて、若い方がこの業界を辞めていく。同業者の花屋もどんどんなくなっている現状である。今後も花業界全体が小さくなるが続くかもしれない。
- ・スタッフの採用の場面で、新卒で入社する人もいるが、途中で入社する人、例えば教員をしていた人、出産育児で一旦業界から離れた人などが再度入社するということが増えている。
- ・文化センターなどの花や園芸の講座には、多くの人が興味を持ってきていただける。社会人が、花の業界について、職業としてやる、そして興味を持っている現象がでてきている。
- ・アカデミーの10年後、20年後について、どのような姿を描いているか。少子高齢化が進み、若い方だけでは立ち行かなくなるかもしれない。社会人の方にも門戸を開いてもらえたらよいのではないか。
- ・花の消費について、装飾用、冠婚葬祭、花束のほかに、自分の為に買う人の消費が多い。

- ・自分の為に買う人が、どういう価値観を持って買うか、理解して売ることが大切。
- ・流通現場では、感受性が高く、買っていただけるお客様と価値観を共有できる人が求められる。新しい価値観をどんどんつくっていくことで、花産業の今後の将来が見えてくるのではないかな。

宇野委員 (欠席された委員からいただいているご意見を事務局より紹介)

- ・経営者となる人材の育成をお願いしたい。簿記も積極的に学び、販売を意識した経営者の育成が必要。
- ・ものを売ることについて、新たな発想が必要だと感じている。どうしたら高く売れるか考え、自分で作ったものを、自分で売りこむことができれば、伸びていける。
- ・学生のうちに、夢を見つけてほしい。とにかく夢を持ってほしい。そして、夢に向かって進んでほしい。
- ・視察やインターンシップなど、今後も協力をしていきたい。受け入れた側としては、学生たちがどう感じたか知りたいと思っている。感想等教えていただけるとありがたい。

山田委員

- ・大学のカリキュラムについて、文部科学省はレイトスペシャライゼーションの方針で、後から専門性を高めていくという考え方。いろいろな目的を持った学生を入学させて、1, 2年生は共通の基礎を学ばせ、3年生から専門性を究めていくという考え。しかし、岐阜大学応用生物科学部は令和7年度入学生から改組の計画があり、1年生から専門教育を意識づけたいという計画になっている。農学部系の学部は、農芸化学から生態系まで幅が広い。最初の入学時から専門性の意識をしてもらいたいという気持ちから改組にチャレンジする。
- ・アカデミーは、入学時花と緑を学びたい学生が集まってきており、1年前期で基礎を一通り学び、1年後期から専攻コースに分かれている。その分けるところ、専門性を意識づけるところでしっかり学生とコミュニケーションをとって選択をさせるとよいのではないかな。専攻を変えるような場面のフォローアップも必要なこと。
- ・大学でも就職先企業等にアンケートを行うと、求める人材として資料6にあるような人間性や能力の部分についてたくさん意見をいただく。大学教育の立場としては、資格や知識を問うアンケート項目を取り入れていることが参考になった。

宮田委員

- ・令和4年、花と緑の振興センターを整備した。こちらの機能として、一つは担い手育成の拠点施設としての機能。もう一つは花き産業振興の拠点としての機能を持つ。
- ・担い手育成に関しては、特に若手の生産者の方を対象とした研修支援を行っている。栽培技術や育種、スマート農業・環境制御技術、県オリジナル品種の栽培を学ぶといった課題解決型の研修や経営力を高める経営分析や経営計画作成、商品開発やネット販売、SNS活用の研修など、令和5年度年間33回、延べ258人の参加をいただいて実施した。
- ・花き産業振興の拠点としては、令和3年に整備したぎふ花と緑の振興コンソーシアムの事務局を担っている。コンソーシアムでは、花き文化の振興や県産花きのPR、異業種連携による新商品・新サービスの開発などを行っている。来年本県で開催される都市緑化フェアや令和9年横浜で開催される国際園芸博覧会など明るい話題もあり、新たな取り組みの動きを起爆剤に、花き産業振興を図っていきたい。

今西学長

- ・関係業界の皆様からのニーズをしっかりと聞きながら、またそのニーズに対する学校側の考え方をフィードバックしながら、今後の学校運営、カリキュラムの編成にも活かしていきたいと思っている。
- ・「岐阜県立国際園芸アカデミー」国際という名前通りのことを実施するため、これからは国際教育

の部分を出していかなければならないと考えている。海外出身学生の受け入れや学外での活動に取り組んでいきたい。

- 学外への発信と学外との連携について、学内にとどまらず、いかにして幅広く外へ向けて動くかが大事になってくる。学生のボランティアを含めて様々な場所へ行って発信し、学外で活動をしていく。その活動をカリキュラムや時間割に組み入れていきたいと考えている。

【閉会（井戸副学長）】

委員の皆様大変貴重なご意見をいただき感謝申し上げます。いただいたご意見は今後の授業やカリキュラムに生かして参りたい。

秋には第2回委員会の開催を予定しており、その際は、令和6年度のカリキュラムについて意見をいただく予定である。

以上で、令和6年度第1回教育課程編成委員会を閉会する。